

令和6年度 第1回 平塚市博物館協議会会議録

■ 開催日時 令和6年7月11日(木) 10時～11時30分

■ 開催場所 平塚市博物館 科学教室

■ 会議出席者(敬称略)

会 長 小倉 俊宏

副会長 藤吉 敬子

委 員 大田 幹司、金子 淳、広谷 浩子、山田 美保

事務局 石川社会教育部長、浜野館長、坂田館長代理(管理担当長)
川端館長代理(学芸担当長)

■ 傍聴者 0名

■ 会議の概要

1 開 会 吉野教育長挨拶

2 議 事

(1) 報告事項等について

- ・ 令和5年度の博物館活動状況について
- ・ 令和5年度春期特別展について
- ・ 博物館こどもフェスタ 2024 について
- ・ 情報発信(ホームページと YouTube・SNS) について

(2) 令和6年度事業計画について

(3) その他

- ・ 事務連絡等

3 閉 会

■ 議事及び質疑

議題(1) 報告事項等について

◆令和5年度の博物館活動状況について事務局川端学芸担当長から説明資料により説明。

委 員 博物館利用状況の入館者数、プラネタリウム観覧者数について、館としてどう評価しているのか、結果に満足しているのか？また、ワーキンググループの集計で、展示解説ボランティアの活動人数が反映されていないような気がする。展示解説ボランティアは曜日ごとに2～3人ずつの班を編成して解説をしており、会員としては当番日が活動日と思っている。

事務局 入館者数については、まだコロナ前の水準には戻っていない。こどもフェスタへの参加などは、事前申し込み制を多く設定していて、自由に参加できる行事が極端に少なかったこともあったのでこの程度の数字は仕方がないと思っている。これからは自由参加を増やしていきたい。ワーキンググループの活動人数については展示解説ボランティアに限らず、例会の参加人数をカ

ウントしている。

会 長 夏休みなど親子連れで来館した際のボランティアさんの対応状況を教えてほしい。

委 員 親子連れはプラネタリウムが人気。展示について母親はボランティアの解説を聞くが、父親は自分で子どもに説明したい気持ちが強い傾向が見られるので、簡単に展示を解説したチラシがあると望ましい。また、子どもたちは地形模型のタッチパネルなどを操作していると楽しそうなので、石などの展示物等も含め実際に触れられるものが増えると良い。

委 員 入館者数に「館外及び野外で開催した行事の参加者数も含む」と注釈があるが、館外等で開催した行事の参加者数は入館者ではなく、利用者ではないか？入館者と利用者または博物館に関わった人などを明確に分けた方が整理しやすいのでは？また、博物館を入館者数または来館者数の増減で評価するのは適切でない。入館者だけでなく、館外で実施した観察会や講演会などアウトリーチ活動の参加者数や、ホームページの閲覧数などを利用者としてカウントする必要がある。量的な評価だけでなく質的な評価という視点が必要で、展示解説ボランティアを行った人を博物館に関わった人と定義する方法もあるのでは？ ボランティアの活動実績を延べ人数としてカウントするなど数字を主体的に処理して質的な評価に結び付けられるようにしたい。

事務局 前期の協議会でも、入館者数、利用者数などについては、ご意見をいただいたところ。

今回いただいたことも併せて入館者、利用者などについて整理した上で、反映していきたい。

◆令和5年度春期特別展について事務局川端学芸担当長から説明資料により説明。

委 員 春期特別展「ひらつかの古道を行く」は歴史・民俗・考古がうまくコラボされており、「面白かった」という感想を持つ人が多かった。市外からの来館者数もたくさんおり、「近くにくる用事があったのでふらっと寄ってみたら思いのほか楽しかった」「平塚市博物館はテーマの切り取り方が面白い」との評価もあった。

委 員 道は自分の生活に関連づけられるテーマで、普段使っている道についても説明があったことから、30代、40代の若い世代も、より身近に感じながら考察をすることができたと思う。

会 長 第2回「中原・南原の古道を行く」に参加したが、分野ごとに学芸員から興味深い話を聞くことができた。個人的に本当に楽しい好企画だったと思っており、引き続き期待している。

委 員 勤務先の神田小学校は中原街道、田村の渡しが交差するところで、子どもたちにも身近で興味が持てることでとても勉強になった。

委 員 展示終了後、アンケートを集計し、感想・意見などもデータ整理して活用していることに驚いた。その後、データをフィードバックできる仕組みがあると、その後の特別展などに活かすことができるとともに更なる情報の蓄積になると思う。

館 長 アンケート集計結果は博物館年報に記載している。今後広く周知するためにホームページなども活用することを検討したい。

委員 アンケート集計の中で、来館者の感想、意見については、まさに量的評価ではなく、質的評価に該当すると思う。来館者とアンケート回答者の年齢について、例えばアンケート回答者の方が若い人が多いなど傾向はあるのか？アンケートの傾向と実際の観覧者の年代が乖離していることもあるので、会場の入口などでモニタリングを行い、来館者の見た目の年齢を記録することを試みても良いと思う。

事務局 来館者とアンケート回答者の年齢比率はほぼ同じである。

委員 情報の入手先に SNS が 6 人とあるが、SNS の持つ力をもっと活かしていきたい。ひとくちに SNS といっても Facebook、X、Instagram、YouTube、Line という様々なサービスがあり、どのサービスが有効かを探るために SNS の内訳もアンケートに入れたらどうか。

館長 春期特別展は近年の特別展としては SNS を情報入手先に挙げた人が少ない。特別展のテーマや PR の仕方によっては SNS の順位はもっと高くなる。それが広域からの来館につながるので、それぞれのサービスをうまく使っていく必要があると思っている。内訳については、現状で行事の広報に利用しているサービスは X と Line の 2 種類であり、今後種類が増えていけば検討していきたい。

◆博物館 こどもフェスタ 2024 について事務局川端学芸担当長から説明資料により説明。

委員 事前申込制と当日整理券・自由参加に分かれていて、それぞれメリットデメリットがあるが今後も同じような形式で行っていくのか？

事務局 整理券・自由参加制は「当日並ぶことが大変」などもあるが、多くの方に参加していただけるので、できるだけ多くの方が体験できる機会を提供したいと思っている。両立させることは簡単ではないが、参加者が負担に感じないようなやり方も引き続き検討していきたい。

◆ホームページ・YouTube・SNS について事務局川端担当長から説明資料により説明。

委員 Youtube5 分でわかる平塚学入門「どっこい神輿と甚句」を視聴した。地域ごとに特徴があり感心させられるとともに強く興味が湧く内容で、通算再生回数が 1 位も納得できる。また、年初に能登半島地震が起こったことで、YouTube で「伊勢原台地と伊勢原断層」「関東大震災と平塚」など再生回数が増えているようだが、展示解説ボランティアをしても、「今後いつ地震が起こるのか」など地震・地質に関することを尋ねられることが非常に多いことから社会状況・情勢への関心の高さがうかがえる。

委員 「鎌倉殿と平塚の 7 人」を題材にして小学校の授業を行っている。学校の近くの田村に三浦義村がいたなど、平塚とゆかりのある方を通して歴史や地域を学ぶよい機会になっている。

会長 昨今の大学の授業では一昔前と異なり、動画を作らないといけない風潮になっており、活用している。また、最近の学生の SNS 事情として、X(旧 Twitter)は少数派で、インスタ派が圧倒的に多いので、若年層を取り込むために活用を検討してみては？

事務局 現在、Xのフォロワー数は2,200人となり、順調に増加している。情報発信についても年間700件程度投稿し絶え間ない情報提供を心がけているが、その都度庁内の決裁を取る必要もあり事務負担もかなり大きいことから、インスタ導入は慎重に検討したい。

会 長 事務負担など課題も多いが、検討していただきたい。

議題（２）令和６年度事業計画について

◆令和６年度事業計画について事務局川端担当長が説明資料により説明。

委 員 博物館実習を９月４日～１２日に予定しているようだが、今の大学は夏休みの期間が短く、９月初めから授業や実習が始まることでせっかくの機会を活かせない大学生も多くいると思う。来年度以降実施時期を再考していただきたい。

議題（３）その他

◆事務連絡等

次回の協議会は令和６年１１月１４日（木）に開催することにした。

閉会后、館内の収蔵室を館長の案内で見学した。